

成長曲線を用いた児童・生徒等の健康管理と成長障害の早期発見

原 光彦

和洋女子大学家政学部 健康栄養学科

小児の最大の特徴は日々成長発達していることであり、身長や体重の変化である成長は、栄養状態や思春期発来の時期、成育環境、疾病の有無や重症度等によって修飾される。我が国では、学校保健安全法が定める児童・生徒の健康診断によって、全ての児童生徒に毎年、身長・体重測定と肥満度を用いた体格評価が行われている。

平成26年4月に発せられた文科省通知（26文科ス第96号）によって、平成28年度から、健診項目から座高と寄生虫検査を削除し、代わりに「身長曲線・体重曲線等を積極的に活用すること」が明記された。成長曲線を用いた発育評価は、肥満や痩せばかりでなく、低身長や高身長、思春期発来の異常をきたす様々な疾病の早期発見につながるばかりでなく、成長曲線の異常から、いじめや虐待が発見される例もある。更に、特定期間の成長曲線が基準線に沿っていれば、その期間の成長には問題がなかったことを証明できるため、成長曲線を用いた成長の評価や健康管理は極めて重要で、全ての児童・生徒に成長曲線を用いた成長評価と健康管理を行うのが理想である。しかし、文科省通知は努力義務であり、成長曲線を描くことには一定の労力を要するため、教員不足や教員の業務量削減などの理由から十分に行われていないのが現状である。このような現状を鑑み、（公財）日本学校保健会の成長曲線普及推進委員会および、成長曲線に基づく児童生徒等の健康管理モデル地区プロジェクト推進委員会（PJT推進委員会）では、成長曲線を用いた児童・生徒等の健康管理推進活動を行なっている。

この教育講演では、演者が委員長を務めるPJT推進委員会の活動内容を紹介するとともに、成長曲線や肥満度曲線の自動作成や成長異常が疑われる者の自動抽出を行うことができる「子供の健康プログラム」の紹介、及び「子供の健康プログラム」を用いた児童・生徒の健康管理の実際を紹介したい。

現在、国策となっている医療・保健分野のDX推進は、成長曲線を用いた児童・生徒の健康管理を容易にすることが予測される。今後は、DXの活用によって全ての児童・生徒の成長曲線が描かれ、教育現場と医療施設を繋ぎ、子ども達の健康を守るための重要なツールとして活用されることを期待したい。